

令和6年度 第2回松本市図書館協議会 議事録

日時：令和7年3月12日（水）10：00～11：30

場所：松本市中央図書館 視聴覚室

【出席者】

委員 5名（伊東会長、住吉委員、梅谷委員欠席）

事務局 12名

傍聴者 0名

【議事録】

1 事務局からの事務連絡

本日の会議は、伊東会長が体調不良のため急遽欠席。会長職務代理を朗読ふれあいの会の鈴木委員に依頼。松本視覚障がい者福祉協会の住吉委員、公募の梅谷委員が欠席。本日は8名中5名の委員が出席で過半数を超えているため、会議が成立していることを報告。

2 館長あいさつ

年度末のお忙しいところ、お集まりいただき感謝。この協議会の任期が来年の8月までということで、こうした形で集まってご協議いただくのが今日で最後。松本市の図書館で来年度大きく変わる事業がある。本日の議題に上がっているの後ほど報告があるが、一点は中央図書館の長寿命化改修工事。施設が建設されてから33年程経ち、老朽化がだいぶ激しい。劣化度調査を実施し、躯体自体は問題ないという結果が出ているが、設備の入れ替えをしなければいけない時期を迎えている。そういった工事に手を付けるということで来年度基本設計をすることになっている。もう一つ、図書館のデジタル化ということで議題に入っている。塩尻市、安曇野市はすでに導入されているが、ICタグの導入をしていきたいと考えている。本に一冊一冊ICタグを貼り、利用者がセルフで貸し出しが出来たり、出入り口にゲートを設けて貸し出し処理されていない本が通るとブザーが鳴るという形で不明本の対策、また、蔵書点検の際に、これまではバーコードを一冊一冊読み取っていたが、器具を棚に向かってなぞるだけで本が読み取れてしまうというようなことが出来、作業の効率化がだいぶ図れると思う。来年度導

入をして、機器を導入するのはまだ先になるが、予定では令和8年度になるが、松本市の図書館の利便性がより高くなるような形でやっていきたいと考えている。詳細は後ほど説明するのでご確認を。本年度最後の会となるのでご協議のほどよろしくお願いいたします。

3 議 題

(1) 報告事項ア 令和6年度学都松本子ども読書活動推進事業について

資料1～10 ページ 事務局より説明

ア 主な内容

趣旨

事業報告

イ 意見・質問

(会長職務代理)

- ・ 何か質問等あれば。ないようなので次の議題に。

(2) 報告事項イ 中央図書館長寿命化改修工事について

資料11～13 ページ 事務局より説明

ア 主な内容

趣旨

改修の方向性

事業内容等

イ 意見・質問

(委員)

- ・ 具体的な例が分からないので質問。PPP／PFIについて具体的な例はあるのか。

(事務局)

- ・ 松本市の中では1件も事例はなく、他の自治体では一部あるが、主には複合施設。図書館単独という施設はほとんどなく、改修事業で民間活力を導入する例はない。新たに新築で複合施設の中に図書館が入るという所は民間もメリットがあるので参入しやすい。今回この場所で改修でとなるとなかなか効果がないだろうということで見送った。松本市でも実例はまだない。

(委員)

- ・ 今後、考えられる中心市街地の再設計にはこれが導入される可能性もあるということか。

(事務局)

- ・ 中心市街地の再設計整備については、図書館が主になって整備するものではなく、市長部局の担当課で進める形になるが、おそらく市単独で施設を整備するということではなく、民間の力を借りて一緒に進めていくというような、公民連携のことになると思う。それをPFIと呼ぶかどうかは分からないが、民間の力を借りて駅周辺の整備は考えていかれるのだろうと思う。

(委員)

- ・ 市長選の時にパルコのことで話題になっていたと思うが、もし何年後かに中心地区の市街地に中央図書館の位置がどういう位置や役割を果たすのか、工事の感じが全然違ってくるのではと思う。そのことは同時に平行して進んでいるわけではないのか。

(事務局)

- ・ 今回の改修工事については基幹図書館としての機能を維持しなければいけない。設備がだいぶ老朽化し、不具合が生じているため、そことは切り離して、今の基幹図書館を維持するための機能回復の工事となる。

(委員)

- ・ 建物の中は分かるが、駐車場、あるいは車の出入口が非常にどうなのかと思っている。車を利用してこの図書館へいう方が多いと思うが、駐車場についてはどうか。

(事務局)

- ・ 駐車場が少ないというのは利用者からも意見をいただいている。今回、改修に当たっては図書館未来プランの中でも触れているが三の丸エリアビジョンの中で小学生や児童が安心して通学し、学ぶことができるよう、自動車の通過交通を抑制するというエリアビジョンがあり、そういう観点からも新たな駐車場の確保は困難ということで未来プランを掲げている。駐車場を増やすというよりも、公共交通や自転車、徒歩でお越しいただけるような、三の丸エリアビジョンの考えの

中で取り入れていかななくてはと思う。

(委員)

- ・観光客は来ると思う。ここを総合的に活用してもらう、三の丸で考えるのであれば、駐車場はどこかに確保していかないと難しいのではと思う。特に松本市というのは市街地以外の所から来たいという人は大勢いると思う。そうした場合に、図書館ではなくても、駐車場というのは考えていかななくてはいけないと思う。

(事務局)

- ・三の丸エリアビジョンの担当課とも広域的な部分については相談させていただきたい。

(委員)

- ・松本市は他の自治体に比べ、図書購入費がたくさんある。それに比べて書庫が手狭で、特に分館は書庫がほとんどない状態。いつもリサイクル本をたくさん出している。他のことは分からないが、児童書を見ると、もう絶版になっている本も1部は置いてあるそうだが、どんどん本を出していつてしまう。それだと、図書館は知の倉庫というか、大事なものがいろいろあるが、それを精査して取っておけるような場所というのが松本市にはない。ICタグを入れるのであれば、機能的に、絶版になった本でも松本市に行けばきちんと取ってあるというような書庫の充実というのが急務でないかと思う。昨今景気が大変悪いので図書購入費もいつ減らされるのか分からない。購入ができなくなってしまった時にあれを出さなければよかったと後悔しないように、開架のものだけでなく、書庫の充実というものも、ICタグと同様に大事だと思う。市街地に図書館を造ったとしても、ストックをするような場所を確保できるとはとても思えない。ストックをすればここしかない。分館はどう見てもストレージがない。プロポーザルの時に業者にその辺の重要性を訴えて欲しいと思う。

(事務局)

- ・松本市の図書館はこの中央図書館の書庫も分館の書庫もかなりパンパンとなっている。書庫に入りきらずに通路に段ボール箱に入れて置いてある状況で、安全面から見ても安全とはいえない状況。新しい本を常に購入するため、古くなったもので利用が少ないものは場所を確保するため

どうしても出ていかざるを得ない部分がある。そこはご理解をいただければと思う。児童書については、最低限絵本と読み物は残すとし、中央図書館の書庫が担うことで、全館共通でやっている。すでに許容量をかなりオーバーしている状態。電子書籍が出てきている中で紙の本を永遠に残していかなければならないかという部分もあるので、図書館職員の中でも検討を始めている。残すべきものと整理をしていくものと精査して進めていければと思っている。

(委員)

- ・社会教育委員で図書館を見学した時があり、その時に書庫も見学した。図書館職員の判断で表に出る本だけでなく、書庫の本も（2階に）出しているという話を聞き、努力されていると感じた。物は増える一方なので大変だと感じた。
- ・トイレについて、だいぶ狭い。今回の改修で検討されているのか。

(事務局)

- ・1階のトイレのことでいいか。1階のトイレはカウンターの横を抜けていく所で、分かりにくい場所にある。トイレは全面的に改修する予定で、綺麗になり使いやすくなると思うが、広さや場所というのは、水回りの関係もあり、大きく変更というのは設計上難しいという認識でいる。今の場所で綺麗に使いやすくなるというのは改修の中でしていきたいと思っている。

(3) 報告事項ウ 図書館のデジタル化について

資料 14～15 ページ 事務局より説明

ア 主な内容

- ・趣旨
- ・実施内容
- ・効果

イ 意見・質問

(委員)

- ・ICタグを活用するにあたって、不明本がなくなると思うが、現在、中央図書館で除籍の本が約1万冊、市全体で2万9千冊だと思うが、その内、不明本はどれくらいあるのか。

(事務局)

- ・全館で約1,800冊ある。

(委員)

- ・子ども読書推進委員会でも発言したが、デジタル化が悪いということでは決してなくて、良いところもいっぱいある。松本市の図書館にはゲートがない。よそから来た人はびっくりしていた。児童に関していえば、自動貸出、自動返却という、全く子どもが見えなくなってしまう。コミュニケーションがなくなると、図書館員は何をすればいいのかとなってしまう。新しいものを導入する時は必ず良いところと悪いところが出てくる。最初に（ＩＣタグを）実施したところから教えていただいて、必ずマイナスのこともあるというのを知っていた方がよい。特に子どもについては一歩引いてからやる方がちょうどよいと思う。子どもが図書館員に聞いたり等がなくなってしまうのは果たして良いサービスだろうか考えた時に、メリット、デメリットをみんなで話し合い、手の空いた職員は本棚をウロウロして子どもが聞きやすい状況を作る等のメリットがなくて、自動貸出、自動返却だからとやるのではなく、省略化した部分を少しでも利用者に近づいたサービスに変えていって欲しい。シニアや子どもに対して親切的な図書館であって欲しいと思う。

(会長職務代理)

- ・職員は窓口ばかりで何で出てこないのかというのはよく聞いている。確かにコミュニケーションは大切だと思うし、聞きたい、何か知りたいという時に、職員は窓口で大変そうに仕事しているなと思い、素通りしてしまう時がある。もっと（カウンターから）外に出てきて欲しいという声も聞いている。

(委員)

- ・図書館のデジタル化について、子どもは大丈夫かなと思った。息子が小さい時に、窓口でのやりとりで息子の興味がある本を教えてもらったりした。子どもはピッとやるのが好き。ピッとやりたいがために本を借りてしまうと思う。便利なのはいいことで、本が勝手に持ち出されないことや悪気があるなしに関わらず、持って出てしまうことが防がれることは助かると思う。自分が読みたい本を自分だけで判断するのではなく、窓口だけではなく、子どもたちとコミュニケーションを取りながら、レ

ファレンスサービスをしていくのは難しいことでもあると思う。

(事務局)

- ・すでに安曇野市、塩尻市で導入している。メリットデメリットを聞き取りして検討していければと思う。現在も２階でセルフ貸出機は設置されているが、バーコードで読み取るため操作が難しいこともあり、利用がなかなか進んでいないこともあるが、確かに子どもたちはおもしろがってやっている子もたくさんいる。それよりもさらに簡単になるため、ご指摘のような心配もあるかと思うが、近隣の先例を聞きながら今後の対策や館の在り方等も検討していければと思う。

(会長職務代理)

- ・昨日の市民タイムスに市内図書館のＩＣタグ導入の記事が出ていた。県内６市町村ですでにＩＣタグが導入されているとのことで、やっと松本市の図書館も導入となる。

(4) 報告事項 エ 松本市図書館未来プランの進捗状況について

資料 16～20 ページ 事務局より説明

ア 主な内容

- ・趣旨
- ・今年度の取組内容

イ 意見・質問

(委員)

- ・図書館協議会委員の立場になって、どんなに図書館が社会に向けて動き出しているかということと、みんなを巻き込んで松本市の中で今までのような固定的な図書館ではなく、開かれた図書館を目指しているということに驚いていた。この頃広報まつもとても図書館関係の催しをよく見るようになり、土曜日によく開催されている、講師を招いての催し（ライブラリレー）に興味がある。私は土曜日が予定があるため出席できないが、夫が興味を持って出席したこともあり、ものすごく楽しみにしている。

(5) 報告事項 オ 令和７年度当初予算について

資料 21～22 ページ 事務局より説明

ア 主な内容

- ・趣旨
- ・予算の概要

イ 意見・質問

(会長職務代理)

- ・特に質問がないようなら他のことでも何でもいいのでご意見を。

(委員)

- ・図書館の仕事は本当に大変だと思うが、市民が一番使いやすい図書館ということを考えるとやはり駅前がよいと思うので、市長に投げかけていただいいて、松本駅もだいぶ古くなってきたので、建て替えと同時に市民が過ごしやすいような図書館をできれば考えていってほしい。パルコが白紙になってしまった中で、三の丸まで足を運ぶというのは大変。駅舎の中に入るといふことも考えていかないとこれからの利用は厳しいのかなと思う。

(委員)

- ・子どもを育てている時は図書館にたくさん出入りしていたが、子育てが終わり、今度は親の介護が始まり、一日中縛られるようになり図書館から離れていた時期があった。この頃ふと思うことが、息抜きの場所はどうしても欲しいと思う。その場所へ行って良い刺激がもらえる、という場所が図書館であって欲しいなと思う。

(委員)

- ・色々な計画や未来プラン等見させてもらって、多方面に渡っており楽しみだと思う。廃棄されてしまう本について、昔、こちらでボランティアをさせていただいて、書庫にも入ったことがあり、スペースに限りがあるということは痛いほど視覚的に分かっているが、捨ててしまった本は二度と戻ってこない。一般向けの本は色々な保存の方法があると思う。児童書は特に戦後ものすごい勢いで大きなジャンルとして確立した。世界に誇れるような本の質や内容、種類も。それが完全に松本市の財産から失われるというのはとても辛いこと。児童書として形で残っていることが一番だが、データとして保存するという方向でもいいので、必ず取り出せる、残せる形の計画があったらいいなと思った。色々便利になっていくと思うが、手に取って開いて手渡せる本というのはとても

大切だと思うので、なるべくどんな形でもいいので残していただける方法を考えていただけるとうれしいと思う。

(委員)

- ・松本の地で45年間、図書館に関わらせていただいた中で、今までで一番仕事が多い、項目も多く、やることがいっぱいある時代になってきたと思う。でもそれと反比例するかのように、正規の職員が少なく、会計年度職員が膨大に増えている。そのひずみみたいなものをすごく感じている。今日、ここに出席している図書館員は正規の方だと思う。正規の職員は館長を含め3年や5年で異動になってしまう。正規職員と会計年度職員で心を合わせてこの図書館をどうやってまとめていくのかというのは、こういう大きなプロジェクトが進んでいく中でも最も重要な課題ではないかと思う。この間、博物館でやった講演会にも参加したが、札幌の話にしても伊東会長の塩尻市の話にしても、素晴らしい内容だったが、人がどこまでつながっているんだろうかと質問したかった。他の図書館も見せていただくが、中で働いている職員が嬉しそうに生き生きと仕事をしているとか、図書館というものが知の財産と自覚して仕事をしている方がいるところは、正規、非正規に関わらず生き生きと仕事をしている。そうではない図書館は入った時にどよんとしている。今、松本市の図書館はその分かれ道だと思っている。事業などいろいろと考えていただいて、これだけの項目を考えるというのはどんなに大変かと思う。大きな桁数の松本市の予算を使ってどんなことができるのか、ダイナミックな構想をみんながワクワクしながらやれるような図書館ができるといいなと思っている。

(会長職務代理)

- ・子ども読書活動推進事業について、さまざまな取り組みがあったり、読み聞かせボランティア養成講座の実施等素晴らしいと思った。スキルアップ講座を受講された方のアンケートを読ませていただいたが、ボランティア活動への意欲というものを感ずることができたが、人材は育っても、その受け皿となる学校における読み聞かせ活動に関しては、学校ごとの差がとても大きいと思った。主に目に障害がある方の読み聞かせボランティアをしているが、小中学校への読み聞かせの活動も行っている。そこで感ずることは、読書活動に熱心な先生がいる学校は積極的な

指導が行われて子どもたちも意欲が高いと思う。そうでない学校は取り組みが不十分ではないかと感じる。そのためには学校の先生方に読書の大切さや楽しさを子どもたちに教えられる指導を考えてもらえないだろうかと思っている。学校への要望になるが、一般の先生方へも読書の大切さを子どもたちに指導できるような研修をしていただければと思う。

(委員)

- ・妊娠された方への市の取り組みはいろいろあると思うが、その中に親から子どもへの読み聞かせは大事なんだよと少しでもどこかに入れてもらえたら、本好きの子どもになるのではと思う。1歳になる前からその辺に本があると子どもは見に行く。そういう環境で育っていない子どももいると思うので、お腹に赤ちゃんがいて、病院に通ってという時期にそのようなことを教えてもらえればと思う。もうすでにやっているかもしれないが、そう思う。

4 閉 会